

平成 19 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ支援プロジェクト
大学院生の自主企画による研究セミナー実施報告書

I. 企画内容

(1) セミナーの名称

「社会学的研究におけるエスノメソドロジ的無関心」

(2) 開催日時・会場

2007 年 12 月 12 日 (水) 13:00~17:00 N 棟・339 室

(3) 講演者

榎田 美雄 (徳島大学総合科学部准教授)

(4) 企画者

山本 智子 (大学院人間文化研究科博士後期課程社会生活環境学専攻)

(5) 支援教員

栗岡 幹英 (文学部教授)

(6) 参加人数

12 名 (内訳: [学内] 教職員 2 名, 大学院生 8 名)

(7) セミナー概要

今回のセミナーでは、徳島大学から榎田美雄先生をお迎えし、教科書を用いたエスノメソドロジ理論の理解と榎田先生が行われた研究の実践例を参照しながら、その方法論の有効性と限界について議論された。

議論の中心となったものは、従来の社会学と、エスノメソドロジは、いかなる点において違いをもつのかという視点があげられる。たとえば、従来の社会学は、「すでにみんなが知っていること」、つまり常識とされていることにおける落差について関心をもってきた。しかし、一方、エスノメソドロジの関心は、「今まで誰も気づいていないこと (seen but unnoticed = 見えているけれども気づいていないこと)」を記述することにあるとする。したがって、「誰も知らないこと (場面の秩序)」を発見することがエスノメソドロジの目的であるとする。

また、今回のセミナーの題目である「エスノメソドロジ的無関心」の「無関心」とは

具体的にどういうことなのかについて、「今まで誰も気づいていないこと (seen but unnoticed=見えているけれども気づいていないこと)」を記述することを目的とするエスノメソドロジーの視点から、以下のように考えられる。すなわち、エスノメソドロジーにおける「無関心」とは、研究の有用性、改善可能性、あるいは、戦略的位置づけなど、社会に貢献するという点に関して「無関心である」とする。たとえば、エスノメソドロジーは、医療現場において、「どのようにしたら医療事故が減るのか」といった問いをもたない。こうした現場の改善可能性を目的にすると、その場の「構造」に巻き込まれ、「～したら良いのではないか」という価値に巻き込まれてしまい、研究のストーリーがそこに埋め込まれてしまう危険性があると考えられている。よって、エスノメソドロジーは、そうした価値観や目的をもたず、あくまで「今まで知らなかったこと」を発見することを目的とし、その目的のための「方法論」としてあるとされている。

以下では、セミナーでの講義にもとづき、「エスノメソドロジーとは何か」について学んだことを具体的に報告していく。

(文責： 山本 智子)

